

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

I 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・日記や短作文、授業の振り返りを書かせる機会を設けることで、自分の考えが伝わるように文章や作文に表すことができるようになってきた。
- ・授業内で、ペアやグループ・全体での意見交流の場を作り、自分の考えを伝えたり、友達の考えを取り入れたりするようになってきた。

(2) 課題

- ・漢字練習や漢字テストを繰り返すなどの取組を継続したが、確実な定着を目指す必要がある。
- ・読書活動に消極的な児童がおり、漢字や語彙の習得とも関連していると考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った ○…目標値と同程度 △…目標値を下回った

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	△		
第5学年	◎	○ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・話の内容を捉える問題の正答率が高い。 ・漢字やローマ字の定着が不十分である。 ・語彙を質・量の面からも豊富にしていく必要がある。	・読み手や聞き手を意識して話することができる。 ・話の内容を聞き取ってまとめる力に課題が見られる。	・学習意欲が高く、発言やノートで自分の考えをしっかりと表そうとしている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を正しく読んだり書いたりする力の定着度に個人差が大きい。	・資料から読み取った事実を書くことや事例との関係を書くことの問題の正答率が低い。	・読書活動に積極的な子がいる反面、日常の中で読書に親しむことが十分とは言えない子もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「とめ、はね、はらい」や、句読点の使い方、拗音、促音などを、正確に書けない児童には、漢字に興味・関心がもてるよう、漢字の部分に注目させたり文章の中で使えるよう問題作りを取り入れたりしながら習熟を図る。 ・ノートやワークシートに教科書や板書を写す活動を通して、文字の表記に関する事項の定着を図る。平仮名、片仮名、漢字の定着を目指すため、定期的な小テストを行う。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読するよう家庭への協力を図る。 ・大人数の前で話すことが難しい児童のために、ペア学習やグループ学習を取り入れ、少人数の中で話す機会を設定することで経験を積ませる。	・話すこと・書くことを通して、自分の思いや考えを他者に上手に伝えられるようになっていく。今後も、自分の考えをまとめたり深めたりする機会を設けたり、スピーチや作文において、様子や思いが分かるように相手に伝えることを意識させたりする。 ・会話文を入れて作文する児童が増えたが、「」（かぎっこ）の使い方の定着が不十分である。はじめ・中・終わり等、文章構成が身に付いていない児童もいるので、文章を読み返し、間違いを訂正していく習慣を身に付けさせる。また、順序立てて書く力を付けるために、日記や短作文などの指導を宿題や授業で継続的に行い、事柄の順序を考えたり組み立てを意識したりしながら書く力を身に付ける。	・読書が好きで、学級文庫や学校図書館から借りた本をよく読んでいる児童がいる一方、なかなか本に興味をもてない児童もいる。いつでも読書ができるような学習環境を整え、朝の時間や学習の合間に読書タイムを設け、本に触れる機会を増やしていく。 ・声の大きさや速さ、姿勢など、気を付けることを具体的に示しながら音読させ、声を出す場を日常的に設定する。 ・朝の会のスピーチなどと関連付けながら、伝える楽しさを味わわせる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字やローマ字については、定期的にミニテストや確認プリントに取り組むことで定着を図る。文章を書く際には、既習の漢字を使うよう指導する。 ・語彙の量を増やすために、物語文や説明文を読む際に、国語辞典を使って、自分で言葉の意味を調べ、理解を促す。	・書く活動においては、構成メモを使用する。はじめ・中・終わりのまとまりや段落構成を意識して文章を組み立てさせる。 ・正しく読み取る力を高めるために、場面の情景や、登場人物の言動を丁寧に指導する。挿絵から分かることを考えさせたり、文章の言葉の一つ一つの意味を共有したりする学習活動を重視する。 ・話し合いの内容をまとめる活動については、自分の考えだけでなく、友達の考えを取り入れ、分かったことや気付いたことをまとめられるよう視点を示す。	・ペアやグループ活動、全体で意見交流など様々な形態で、一人一人が意欲的に伝え合うことができるよう学習活動を工夫する。 ・長文を読むことや書くことに抵抗がある児童については、本のポップ作りでおすすめの本を紹介し合ったり、読書週間を利用したりして読書の楽しさを味わわせる。 ・短い文や長い文など、文章を書く時間を設定し、テーマを工夫することで意欲を高める。「書くって楽しいね」や文章を使ったゲームを取り入れて、書く力や意欲の向上を図る。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 漢字テストや小テストを行うだけではなく、自主学習や社会や理科の新聞作り、レポート作成などの書く学習において、既習漢字を活用できるよう指導する。また、すぐに調べることができるよう辞書等の環境を整える。 ・ 敬語については、日常の中でも使うものなので、正しい言葉遣いで相手に伝えることの大切さを実感できるようにする。	・ 書く力の向上を図るために、本や文章を読んだの自分の考えを交流する場面では、自己の考えを文章で表現し、それを基に伝え合う活動を取り入れる。 ・ 資料を正しく読み取って考察したり、具体的な数値を用いて他者に伝えたりするなど、説得力のある伝え方について具体的な方法を示し、活用できるよう指導する。	・ 自分で考えたことをペアやグループに発表したり、全体で共有したりする時間を大切にする。話し合いを通じて自己の考えを見つめ直したり、新たな視点に気付いたりできるよう指導する。 ・ 国語の教科書巻末「言葉の宝箱」を活用し、語彙を広げられるように計画的に指導する。